

# 津房地区公民館便り

編集・発行  
津房地区公民館

電話番号  
48-2001



11月24日(日)

## 5回目の「茶飲みの市」

ご報告

←5名の安心院高校生が手伝ってくれました！  
明るく爽やかなみなさんでした。  
彼女たちは佐田地区・院内・旧宇佐市内からの参加でした。次回は津房からの参加もお待ちしております。



↑ 出店品を並べて談笑する参加者のみなさん



キャップ

月もお願いしています。

今回、永田信一さん(六郎丸)が快くいろいろ格安で研いでくれるサービスをしてくださいました。

回おいでください。  
定着した半面、参加者が固定されてきて、新たに来られる方が増えていないのが残念です。出品物がなくてもお茶を飲んで、並んでいるものを見るだけでも楽しいと思いますので、気軽にお出でください。今回出品されていた物品の一部を掲載しますので、気になる品があれば、次回おいでください。

食パンの耳でご来訪者のお茶うけに揚げパンを作ってくださいました。「ありがとうございます」。また、大坪館長のお母さんも毎回好評な淡雪羹を作って差し入れてくださいました。

次回は三月の予定です。  
次第に「会」そのものは定着して、今回も梶原さん(尾立)と藤田さん(中間)が



いろいろな食器→

すぐに使いそうなかばん↑

↓ 使い易さとデザインの良さを兼ね備えた手作りのバッグ



この冬も津房小学校からプランターを3ついただきました。パンジーのほかに、デイジーとキンギョソウの寄せ植えです。



### 《おわび》

前号で、公民館にご寄付いただいた南畑の池田様のお名前が間違っておりました。池田静夫様でした。



すべて破格の安値です。物価高の折、お得なものが見つかるかもしれませんよ。ちなみに指導員の私は、50円でグレーのジャケットを購入して着ています。

# 十二月四日～十日は人権週間でした

## 自分のことが好きですか？

以前の私は、「あなたは自分のことが好きですか？」と聞かれても、自分の欠点や劣っていることにばかり目がいき、「はい、好きです」と答えることができませんでした。

最近、研修で様々な人権問題を知っていく中で、自分の中で変化が起こってきました。

私たちは、他人から良いところを見つけてもらう、褒めてもらうことで、自分を見つめるきっかけになったり、自信を持つことができるようになったりします。自分を大切に思えば、他の人の人権をも大切に思う心が育まれていくのだということに気がつきました。

「自分のことが好きだ」「自分にはこんないいところがある」と誇れるためには、自分の良さを知ることが必要です。それは、他者との比較による「優れている」「劣っている」という見方ではなく、ありのままの自分をまると好きになるということではないでしょうか。我が子に対して、「他の子はできるのにどうしてあなたはできないの」と、つい言うてしまう自分に反省しきりです。

自尊感情は、幼い時期からしっかりと育てていくことが大事だと言われます。また、他人との関わりの中で高められていくとも言われています。誰もが友だちや家族、周囲から認められ、「自分はかけがえのない大切な存在なんだ。自分はいるだけで十分に尊重される存在なんだ」と思える心を育てていきたいものです。

大分県人権啓発コラム「心ひらいて」より



「困っている人がいたら助ける。『アニメ』『オーバーロード』のタツチミーさんもそういってます。」

→「武器ではなく命の水を」はYouTubeで検索すれば視聴できますので、時間があればぜひ見てください。

12月4日～10日の1週間が人権週間なのは、1948年の12月10日に世界人権宣言が国際連合で採択されたからです。たくさんの犠牲者を出した第2次世界大戦への深い反省から採択されたものですが、以降「戦争」の絶えることはなく、何とかならないものかと感じます。

2019年12月4日（人権週間の始まる日）に中村哲医師がアフガニスタンで射殺されましたが、中村医師はアフガニスタンで医者として働きながらも、「命をつなぐ」には医療ではなく水（食料）だと考え、井戸掘りや水路づくりを現地で主導しました。「人は人のために働いて支えあい、人のために死ぬ。結局はそれ以上でもそれ以下でもない」。よくわからなくても、何かすてきな言葉と思いませんか？



2023年3月学校を退職するまでの数年間、中学3年生には2時間ほど理科の授業をしなくて、（自分には中村医師のようなことはできないですが）彼のドキュメンタリーを見てもらっていました（NHK Eテレ「武器ではなく命の水を」）。何を感じるかは生徒それぞれの感性や生活背景によって違うかもしれませんが、ただ見てもらうだけでした。でも、人との出会いは直接でなくて映像の中であっても、人の心を動かしたり、生き方を見つめなおしたりできていると思っています。

数年後、ある保護者と会ったとき、「息子は先生に見せてもらった中村さんのようになりたいと医者を目指しています」と聞きました。後年、希望通りに医学部に合格したそうです。

中村医師と同じ道を進んでほしいとは思いませんが、少しでも「他」を大切にすることのできる医者になって欲しいと願っています。

五郎丸の佐藤浩一さんからチューリップの球根をたくさんいただきました。公民館に植えたパンジーの間に植えました。来春、きれいな花を咲かせることでしょう。



※題字下奥付のQRコードでのアクセスができない不備を解消しました。